

2025年度 社会福祉法人権の木福祉会 事業報告

1. 2025年度主要事業の報告

①法人本部機能の強化

経営基盤の強化を目的として債券投資を実施し、財務基盤の安定化を図った。あわせて、事業規模の拡大および将来的な事業構成の強化を見据え、M&Aを実施した。

②働き方改革と魅力ある職場づくり

組織運営体制の整備として、給与規程および育児・介護休業規程の見直しを行い、制度の適正化と働きやすい職場環境の整備を推進した。

③人材確保対策

新卒人材の確保に向け、関係学校への訪問および各種就職ガイダンスへの参加を通じて、法人の魅力発信と採用活動の強化を図った。

また、外国人人材の安定的な確保を目的として受入機関との連携体制を構築し、外国人労働者の受入れを推進した。

④事業運営

地域包括支援センター開設初年度として、総合相談支援業務、介護予防ケアマネジメント業務、認知症総合支援業務を着実に実施した。

半田市にあるNPO法人と株式会社からの事業継承に伴い、2025年11月1日より共同生活援助を新規開設し、2026年4月1日より放課後等デイサービスを新規開設および既存放課後等デイサービスの移転を実施した。

⑤地域連携

中野会との法人間連携や地域貢献を進めた。

2. 事業所別報告（実績・課題）

1) 特別養護老人ホーム瑞光の里

【稼働状況】

年間平均人数 目標 149.0人に対し 149.0人であった。（定員 150人）

【利用者の生活の質向上】

職員一人ひとりがコミュニケーションを大切にし、個別の意向に沿い、「その人らしい生活」の実現に向けたケアを実践した。

環境整備や感染予防対策等に尽力し、安全・安心な暮らしを提供した。

【職員の質向上】

介護福祉士資格保有者の比率向上に向けた支援・育成に努め、3名が介護福祉士試験に合格した。介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に推進した結果、2名が新たに有資格者となった。認知症介護の質の向上に向け、認知症介護実践リーダー研修の受講を進め、1名が新たに認知症介護実践リーダーとなった。

ユニットリーダー研修の受講を進め、2名が新たに研修修了者となった。

専門的な知識の習得に加え、誠実で丁寧な接遇を心がけ、利用者・家族との信頼関係を構築した。

【地域連携の強化】

職員間の情報共有を心がけ、緊急ケースを迅速かつ柔軟に受け入れた。（措置入所を含む）

プラチナカフェの開催やボランティアの継続的な受け入れを通じ、地域住民との積極的な交流を促進した。こども食堂や出張相談窓口の継続により、地域課題を共有し、相談窓口としての役割を強化した。

2) 特別養護老人ホーム第二瑞光の里

【稼働状況】

年間平均人数 目標 97.5 人に対し 96.2 人であった。(定員 100 人)

【利用者の生活の質向上】

利用者一人ひとりに寄り添い、安心して生活できる環境づくりを実践した。

季節に応じた行事やイベントを実施し、利用者を楽しんでいただく機会を提供した。

【職員の質向上】

介護福祉士資格保有者の比率向上に向けた支援・育成に努め、2 名が介護福祉士試験に合格した。

介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に推進した結果、2 名が新たに有資格者となった。

顧客意識を持った接遇の定着を図るため、朝礼時に接遇に関する復唱を実施した。

多様性を尊重した支援を意識し、利用者・家族それぞれの状況に応じた柔軟な対応を行った。

産業医と情報共有を密にし、職員の健康増進に取り組んだ。

介護技術向上に関する外部研修を受講した。

【地域連携の強化】

半田市・半田地区介護予防生活支援協議会の委員として活動した。

かりやど憩の家で介護保険講座を開催した。

3) 特別養護老人ホーム瑞光の里 緑ヶ丘

【稼働状況】

年間平均人数 目標 116.4 人に対し 118.0 人であった。(定員 120 人)

【利用者の生活の質向上】

利用者の生活の継続を意識し、個別ニーズであるユニットケアの提供を行った。

「緑ヶ丘で良かった」と思っていただけのために、楽しんでいただける様々な行事を企画した。

【職員の質向上】

ショートステイ受入れを円滑にするため仕組みを見直し、スムーズな受入れと職員の業務負担を軽減することができた。

科学的介護情報システム (LIFE) データに基づき、栄養摂取量の増加に向けて取り組んだ。

介護福祉士資格保有者の比率向上に向けた支援・育成に努め、2 名が介護福祉士試験に合格した。

介護職員等によるたん吸引等研修の受講を計画的に推進した結果、2 名が新たに有資格者となった。

【地域連携の強化】

困難ケースと向き合い、地域から頼られる施設を目指した。

研究協力などを通じて日本福祉大学半田キャンパスとの交流を進め、連携を深めた。

介護福祉士・社会福祉士などの実習生の受け入れ体制を維持し、福祉人材を育成した。

ユニットリーダー研修実地施設として福祉人材を育成した。

4) 半田養護老人ホーム Link

【稼働状況】

早期調整と関係機関との連携により、年間を通して稼働率 100% を維持した。

【利用者の生活の質向上】

職員への継続的なフィードバックと、総会・懇談会・外出支援によるニーズ把握により、支援の質と満足度が向上した。また事例発表を通じ、生きがい・やりがいの創出にも寄与した。

【職員の質向上】

働きやすい環境づくりを進め、職員の負担軽減と協力体制の強化を図った。その結果、業務上のストレスが軽減され、より安定した運営が可能となった。

【地域連携の強化】

協和区や各種団体との関係づくり、実習生受入、ボランティア活動などを通じて地域交流の企画・実施が進み、地域とのつながりを深めることができた。

5) デイサービスセンター第二瑞光の里

【稼働状況】

年間平均人数 目標 29.0 人に対し 26.4 人であった。

【利用者の生活の質向上】

常に在宅生活の継続を意識したサービスを提供した。

利用者同士のつながりや関係性に配慮した配席・配車を行い、相互交流が図られる環境づくりに取り組んだ。

【職員の質向上】

利用者一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を行うため、多職種間での情報共有を実施した。

多様性を尊重した支援を意識し、利用者・家族それぞれの状況に応じた柔軟な対応を行った。

運転業務における安全意識の共有を日々行い、重大事故の防止につなげた。

【地域連携の強化】

担当ケアマネとの情報交換を密に実施し利用者中心のサービスを提供した。

日本福祉大学社会福祉学部の実習生を受け入れ、福祉人材を育成した。

夏休みボランティアを受け入れ、地域に開かれた施設運営を実施した。

6) 瑞光の里指定居宅介護支援事業所

【稼働状況】

要介護プラン作成件数 1人平均 31.5 件であった。(目標: 1人平均 37 件)

要支援プラン作成件数 1人平均 4.1 件であった。(目標: 1人平均 2 件)

特定事業所加算Ⅱの算定を継続した。

【利用者の生活の質向上】

経済困窮やネグレクト、複雑な家族背景等、多様化・深刻化するニーズに対し、利用者本位のケアマネジメントを実践した。特に、生活環境の改善が必要な事例では、利用者本人だけではなく家族との対話を重視し、丁寧な合意形成を図ることで苦情意見等を未然に防止した。

【職員の質向上】

日頃のケアマネジメント業務を通じた自己研鑽に加え、外部研修への活動を通じ、専門性の向上を図った。職場内においてコミュニケーションの取りやすい柔軟な環境づくりを進めたことで、介護保険制度の改正等に関する重要事項の迅速な情報共有と円滑な周知を図った。また、他法人との事例検討会を実施し、多角的な視点からアセスメント能力を磨き、安定したマネジメント提供ができた。

【地域連携の強化】

地域での困難事例の受け入れを継続的に実施した。

地域コミュニティへの活動に定期的に参加し、相談窓口としての役割の強化や地域住民との信頼関係を深めた。行政主催の協議会等へ継続して参加し、関係機関とのネットワークを構築した。

7) 半田市南部包括支援センター瑞光の里

【稼働状況】

予防給付プラン件数: 1人平均 21 件であった。

【利用者の生活の質向上】

自立支援に資する介護予防マネジメントを実施した。

担当圏域の特性、ニーズの把握に努め課題解決に取り組む業務を明確にした。

【職員の質向上】

利用者を中心としたマネジメントの実現に向け法人内外の各機関と連携を図り、専門職としての知識、見識を深めることができた。

外部研修の活用や他法人との事例検討、意見交換を実施し職員が共に考え、安定したマネジメントを提供した。

【地域連携の強化】

地域のコミュニティへ参加し地域住民との交流や信頼関係を深め包括支援センターの浸透を図った。行政主催の協議会等へ参加し、関係機関との連携を強化した。

総合相談を通じて、各ケースの課題解決を実施した。

8) 障がい支援事業

事業全体の安定的な運営を図るため、新規事業を展開した。

【相談支援ずいこう】

平均稼働：月間請求数 94.6 件であった。（目標 100 件）

新たに社会福祉協議会への出向契約を締結し、相談支援専門員を 1 名増員することができた。

【ヘルパーステーションずいこう】

平均稼働：月間支援時間 523 時間であった。（目標 620 時間）

職員確保に課題が残り、目標達成には至らなかったが、グループホームとの兼務配置を行うことで、正職員配置の適正化を図り、収支改善につなげた。

【グループホームずいこう】

平均稼働：5.9 人であった。（目標 6.0 人）

事業継承による 2 棟目のグループホームを開設した。

【トレーニングスペースずいこう】

平均稼働：17.8 人であった。（目標 17.0 人）

居場所機能を重視した B 型事業所を運営することで、これまで利用につながりにくかった層の新規利用獲得につなげた。

【就労支援すまいるずいこう】

平均稼働：16.8 人であった。（目標 17.0 人）

一般就労への移行を 3 名達成した。

作業内容や支援体制の見直しを行い、平均工賃の向上につなげた。

【放課後等デイサービスずいこう】

平均稼働：5.6 人であった。（目標 6.0 人）

重度者および医療的ケア児の利用増加に伴い、職員を増員し支援体制を整備した。

【生活介護ずいこう】

平均稼働：7.0 人であった。（目標 10.0 人）

重症心身障害者の利用割合増加に伴い、職員を増員し支援体制を整備した。

【障がい支援事業共通】

重度者向けグループホーム開設に向けた整備の一環として、多機能事業所内で運営していた放課後等デイサービスを別拠点へ移転した。

職員の個別対応により補っていた支援を事業として適切に実施できる体制を整備するため、自立生活援助事業を開設した。

生活訓練、就労支援 A 型、就労移行支援、児童発達支援等の新規事業について情報収集を進めた。
職員獲得および後継育成を目的に、実習生受入体制を継続していくため実習施設登録を実施した。

3. 研修、委員会活動

1) 研修活動

①施設内研修

研修名	研修内容	研修実施月
事故防止対策	・ 事故防止の考え方 ・ KYT	6月・12月
地震防災 事業継続計画	・ 地震防災教育（事業継続計画研修） ・ 非常食訓練 ・ 災害用物品使用訓練 ・ 安否確認訓練	1月 3月 9月 4月・7月・10月・1月
火災避難訓練	・ 初期消火と避難誘導訓練（日中夜間想定）	6月・11月
救命訓練	・ 救急要請と心肺蘇生法訓練	10月
感染症予防対策	・ 感染症 BCP、汚物処理、ガウンテクニック訓練 ・ 感染症及び食中毒予防研修	8月・1月 5月・11月
褥瘡対策	・ 褥瘡予防の体位変換、除圧訓練	11月
身体拘束廃止	・ 感染症発生時の予防における身体拘束手順 ・ 身体拘束防止教育	9月・3月
虐待防止	・ 虐待防止、不適切ケア廃止 ・ 認知症の理解	6月・12月
看取りケア	・ 看取りケアの充実 ・ 家族支援	9月・3月
介護技術	・ 福祉用具の使用方法	2月
生産性向上	・ 5S 活動	10月
新入職員研修	・ 法人理念、就業規則、コンプライアンス等の理解	入職時
プリセプターシップ	・ 業務理解と技術習得	入職から半年
育成プロジェクト	・ リーダーシップ力向上	随時
ケアの質の向上	・ 個別ケアの理解、ケアの質の向上	毎月

②施設外研修

外部研修を受け、専門職としての知識や技術の向上を図った。

喀痰吸引等研修、ユニットリーダー研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症介護実践者研修を受講した。

2) 委員会活動（毎月 1 回、状況により随時開催）

①リスクマネジメント委員会【事故防止対策委員会】

事故、アクシデント、インシデントデータの集計を行い、介護現場にフィードバックした。
事故発生時の緊急会議の開催および事故分析を現場職員と共に行い、再発防止に取り組んだ。
事故防止に対する啓発活動および知識向上のための訓練を行った。
インシデント発生時の迅速な情報共有および再発防止を目的とした体制整備を行った。
喀痰吸引等の事故予防の取り組みを行った。（喀痰吸引等特定行為の安全委員会）

②レスキュー委員会

定期的に訓練を計画、実施し、振り返り評価を行った。(消防、救急救命、地震防災等)

オンコール体制の変更に伴い、マニュアルの見直しを行うとともに、職員への共有を実施した。

訓練を通じて職員個々の防災意識を強化できるよう働きかけた。

非常時に使用する物品管理を継続して行った。

BCP(事業継続計画)に関する知識や対応力の向上を目的として、研修や訓練の実施に取り組んだ。

③メディカル委員会【感染対策、褥瘡予防対策、身体拘束検討委員会】

各種感染症マニュアルの見直しを行うとともに、職員への共有を実施した。

感染症に関する物品の管理を行った。

感染症流行時期に合わせた勉強会の開催、シミュレーションを行い、マニュアルを周知した。

褥瘡予防のために使用する介護用品の管理を行った。

褥瘡予防に関する情報の提供を行った。

感染症発生時における身体拘束手順を周知した。

委員会内で身体拘束の件数・内容を共有した。

身体拘束廃止に向けて取り組み、身体拘束ゼロを維持した。

④認知症ケア委員会【虐待防止委員会】

認知症についての理解を深め、認知症ケアに関する技能向上を進めた。

高齢者、障害者理解を深め、虐待防止の啓発を行った。

「不適切ケア」改善に向けての取り組みを行った。

⑤看取りケア委員会

終末期を迎える利用者・家族に対し、より良いケアの提供と精神的な支援が行えるよう取り組んだ。

施設での看取りを経験された家族を対象にアンケートを行い今後の支援方法について検討した。

死生観教育を通して看取りケアの質の向上を図った。

⑥介護技術向上委員会

個別援助技術の向上につながる取り組みを行った。

福祉用具を取り入れ、移乗や安楽な体位変換に取り組んだ。

口腔ケア技術の向上と誤嚥性肺炎予防を目的に協力歯科機関との連携を強化した。

排泄ケアの見直しを行った。

⑦生産性向上委員会

5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)活動を行い、生活環境の改善を進めた。

業務や職員が働く環境の改善に取り組んだ。

接遇、マナーについての啓発活動を行い、施設全体の質の向上を図った。

4. 会議開催等

会議等	開催年月日	概要
監事監査	2025年5月16日	2024年度年事業報告及び決算について
理事会 (5回開催) ※書面による決議	2025年5月28日	2024年度年事業報告及び決算について 定時評議員会の開催について
	2025年6月20日※	理事長の選定について 常務理事の選定について
	2025年9月8日※	育児・介護休業規程の一部改定について
	2025年12月10日	2025年度第1次補正予算について 経理規程の一部改定について

	2026年3月25日	2025年度第2次補正予算について 2026年度事業計画及び資金収支予算について 評議員選任解任委員の選任について 愛知県社会福祉協議会介護福祉士修学資金等貸付事業の法人保証について
評議員会 (1回開催)	2025年6月18日	2024年度年決算について 理事の選任について 監事の選任について
その他定例会議	月1回	経営会議
		法人本部会議
		施設会議
		全体会議
		各部署会議
		衛生委員会
		その他

監査等	法人本部 2025年10月27日	社会福祉法人等指導監査（実地）
	瑞光の里 2026年1月7日	介護保険運営指導（実地）
	第二瑞光の里 2025年10月30日	介護保険運営指導（実地） 社会福祉法人等指導監査（実地）
	ヘルパーステーション ずいこう 就労支援すまいる ずいこう 2025年7月24日	障がい福祉サービス等事業者指導（実地）

以上